

『リーダーズ』第3版を3ヶ月使って

真野 泰
Mano Yasushi

今回の改訂の素晴らしさに気づいたのは **spoil** の項を読んだときだった。「ネタバレ記事、ネタバレらしする人」の意味が **spoiler** に載ったのを確かめていたら、これが紙の辞書のよいところで、ちょっと上の **spoil** に目がいった。

読み始めると、どうも様子が違う。例文に付された日本語訳がやわらかい。あわてて第2版(1999年)と突き合わせた。旧版は **spoil sb's beauty for him** を「顔をなぐって(あぎをこしらえ)だいなしにする」と説明している。それが新版では **I'll spoil your beauty for you.** とフル・センテンスになり、「(なぐって)きれいな顔をだいなしにしてやろうか」という訳がついた。同様に、旧版の **spoil one's appetite [dinner]** ((食前に食べて)食欲をなくす)が、新版では **You'll spoil your appetite [dinner].** ((間食しすぎて)ごはんが食べられなくなるよ)である。新例文 **You spoil me.** (こんなにまでしてもらってありがたい)も加わった。いずれも声の聞こえてくる訳であり、ことばが場面と結びついている。

この **spoil** の項から、語義の面でも丁寧な改訂が行われた

ことがわかる。「(わざと誤記などして)〈投票用紙を〉無効にする」というイギリス英語の用法が新たに載ったし、旧版の「[スポ]相手の調子を乱す」は新版では「[スポ]相手の得点を阻む」に改められた。

むろん、疑問に思う点がないわけではない。たとえば **trouble** の項から **the Troubles** (北アイルランド紛争) についての記述が削除されたこととか、その関連では1998年の **Good Friday Agreement** が載っていないこととか。見出し語だった **[the] Act of Union** が、「準見出し」として **union** の項に追い込まれたこととか。歴史の話のついでにいえば、巻末の「英米史・世界史年表」が消えたのは残念である。あれはエリザベス1世崩御と江戸開府が同じ年だったとわかったりして便利だった。

しかし、完璧な辞書などありえない。新語・新語義・新イディオムの追加、語義の精緻化、訳語の洗練、例文とその日本語訳の見直しなど、どの面をとっても、今回の改訂には頭が下がる。こんなにきちんとした仕事をする大人がいることを子供たちに知ってもらいたい、まだまだ日本も捨てたものではないぞと嬉しくなる。こんな **spontaneous overflow of powerful feelings** を感じるのは久方振りである。

つまり2012年は山中伸弥博士のノーベル生理学・医学賞受賞と『リーダーズ英和辞典』第3版の刊行という二つの国家的慶事が重なった。第3版には、博士の **iPS cell** も載った。科学系では、**BBC Learning English** の **6 minute English** を学生たちと聞いていたら出てきた **RNA interference** も載っている。流行語で定着したものとしては、**[the] Arab Spring** や **staycation** や **unfriend** がある。イギリスの首相は **Tony Blair** までだったのが、第3版には **Gordon Brown** と **David**

Cameron も登場した。Nick Clegg は見つからないが、副首相では駄目なのだろう。Barack Obama も Angela Merkel も Nicolas Sarkozy もいる。François Hollande も間に合った。Xi Jinping も Lee Myung Bak も Kim Jong Un もいる。

CIA がアルカイダの容疑者を尋問するさいに用いて有名になった **waterboarding** という拷問方法も載った。ジャーナリズムで見かけることばでは、**deal-breaker** や **game-changer** や **honor crime** も載った。口語・俗語では、**bling** や **honeypot** や **loogie** など。

旧版から載っていた語やイディオムに新しい語義が加わったり、その訳語が見直された例も多い。たとえば、**break with** は「…との関係 [交わり] を絶つ」に「〈慣習・伝統など〉と決別する」が加わったし、動詞の **shadow** には「(仕事をおぼえるために) 〈人〉に付き従う」が加わったし、**shed** は旧版の「捨てる、減らす」に相当する訳語が、「〈イメージなどを〉捨てる、脱却する; 〈仕事・人員・体重などを〉減らす、削減する」と意味を鮮明にした。細かいところでは、**clean sheet** の「(サッカーなどで) 完封勝ち」というイギリス語法、名詞 **staple** の「定番」という訳語。また、**austerity** や **bailout** といった欧州債務危機との関係でよく目にするようになった語の訳語や説明もきめ細かくなった。ほかに、**implication; monument; physical; pretentious; squeamish** などの訳語も改良された。

イディオムでは、**a hard [tough] act to follow; see sth coming (a mile off); ... , and counting; the elephant in the room; ladies who lunch** などが拾われた。イディオムというほどのものでなくても、よく使われる **Couldn't be better [worse]; I couldn't; stand out in a crowd; (It's) not every**

day that ... ; economical with the truth; now (that) you mention it; talk (some) sense into sb; the whole idea of ... ; the whole point などの表現をイディオム扱いにしたのは親切である。これは例文の扱いと並んで今回の改訂における新機軸であり、編者たちの高い見識を示している。

例文にも、決まり文句に近い **see the error of one's ways; Don't try this at home; be an insult to sb's intelligence; Life is cheap here; Where have you been all my life?; melt into sb's embrace [arms]; I don't mind paying for quality; More on that later; May I refresh your glass [drink]?; Oh, you shouldn't have!** などなどが加わって、『リーダーズ』はハイリィ・リーダブルになった。ごく短い例文にも、**added bonus; a chat-up line; a rough guide; the spring melt; a rogue state [nation]** など、慣用句が精選されている。

妙な形容になるが、『リーダーズ』は今回ぐっと人間臭くなった。奇しくも **put a human face on ... = make ... human** というイディオムが拾われた **human** の項には、なんと **Clinton is only human**. (クリントンも人間だ (あやまちも犯す)) という例文が現れた。これをご本人が知ったらどんな顔をするだろう。ふと思い出したのは、『齋藤英和』の **Young sinner, old saint**. (道楽者も年を取れば締まる) と **an old sinner** ((所謂) 頭禿げても浮気は止まぬ) という二つの例文であった。

(『リーダーズ英和辞典 [第3版]』高橋作太郎編集代表、2012年9月、研究社)

(学習院大学教授)